

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177400231		
法人名	沼田町		
事業所名	沼田町認知症高齢者グループホームなごみ		
所在地	雨竜郡沼田町旭町3丁目5番29号		
自己評価作成日	平成25年2月28日	評価結果市町村受理日	平成25年3月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0177400231-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○ 夜間の勤務職員数を基準の1名から、利用者の安全・安心等の為2名体制としております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

祭ばやしとほたるの里 沼田町にあるグループホーム「なごみ」は特別養護老人ホーム・養護老人ホームが隣接されている町営の定員9名のグループホームである。それらの施設の人たちとは顔なじみも多く、行事も一緒に行うことが多く寂しさを感じさせない環境にある。またこのホームは通所介護や短期入所など多機能的なサービスも有しており、地域の認知症の方々やその家族の在宅生活を継続する上での心強い味方ともなっている。利用者を支える職員体制は、通常の介助員の他に調理員の配置や夜勤者を2名にするなど十分な体制を整えている。その手厚い介護体制にて職員は一人ひとりに時間をかけて関わることができ、介護理念でもある個々に合った暮らしの提供を実感できる場面でもあると話している。地域ボランティア(読み聞かせ・音楽)の訪問も毎月あり、特に外出の少なくなる冬期間は心待たれる楽しみの時間となっている。ほたるの里にふさわしくゆったりと時間が流れていると感じさせてくれるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年に1度、理念について話し合いの機会を持ち、利用者のケアに反映されているかを確認している。また、理念は事務所やホールに貼り出したり、ネームプレートの裏に貼り個々に意識できるように実践している。	ホール・事務室での掲示のほか、ネームプレートにも記載されており、日々意識付けされている。職員はゆっくりと時間をかけて利用者と触れあう事で理念を実感できている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の作品を町民芸術祭に展示したり、隣接している高齢者施設の行事に参加する等し、地域との交流を深めている。また、健康維持の為に散歩に出かけたりする中で、地域の方々と挨拶を交わしたり会話をしている。また、近所の方やご家族から自宅でとれた野菜等を頂いたり、近隣の高齢者施設と協力しながら菜園や花畑も作っている。	町民芸術祭に作品を出品したり、町内の祭り・行事や隣接されている施設の行事など積極的に参加している。夏場は散歩や買い物に出かけ、近所の方々と気軽に挨拶を交わしている。田園地帯だけに野菜の差し入れも多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	デイサービスを開設し、地域のニーズにこたえている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は6回の開催を目指して取り組み、単に会議形式で行うのではなく、避難訓練と組み合わせで災害救助の講話をして頂いたり、温泉や食事会と組み合わせで家族と交流する場面も作っている。また、普段の食事ではどのような物を提供しているのか、実際の食事を見て、試食して頂く等当施設での取り組みについて知って頂く努力をしています。	今年度中に6回開催の予定である。家族の方が来やすいように行事などを組み合わせ、家族や出席者の方々にホームの理解を深めてもらい、和気藹々となったその後に開催し、意見を出しやすい雰囲気作りに努めている。会議録も家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホームとしては、数少ない公立の利点を生かし、町の担当者と情報交換を行ったり、社会福祉協議会との連絡や情報の共有を密にして利用者サービスの向上や関係機関との交流を深めている。	町営であるという利点を活かし、各機関と積極的に連携を取っている。包括支援センターとは地域の在宅生活者の情報の共有に努め、問題解決に向けて一緒に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関にはかぎを掛けない事を職員、家族、地域の方々にも理解して頂いている。帰宅願望があったり、外出したいという利用者にはその都度付き添って対応している。家族には、身体拘束をしない事の説明や万が一の方針が分からなくなった時の対応をマニュアル化して理解を頂いている。	重要事項説明書に拘束・抑制のない生活と緊急時の対応について謳っており、身体拘束排除マニュアルにて職員の共有認識を図っている。また離設時の対応マニュアルも作成し、安全面に配慮し普通の暮らしとしての生活を支えるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、研修等を通じて虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、他の職員に伝える形で周知している。利用者のケアにあたって職員それぞれが意識を持ち、注意し合う事で虐待防止に努めている。		

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度や日常生活自立支援事業の研修に出席したり、職員全体会議で説明する等し、理解を深めるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際の契約はもとより、重要事項説明書についても丁寧に説明している。後ほど不明な点があれば、その都度説明し理解して頂くように説明している。また、状態の変化や、施設運営等により契約の改正を行う場合は、利用者、家族に詳しく説明し同意を得るように心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問した際には、現在の様子等を報告しその都度家族の意見等も窺うようにしている。家族から寄せられた意見や要望は連絡ノートや会議で全職員に伝え改善を図っている。日頃から利用者との会話を多く持つようにし、本人の要望や意見を聴く機会を設け、反映させる努力をしている。	広報紙を発行し、家族に送付し情報発信している。家族訪問時には積極的に声をかけ、意見や要望をもらうようにしている。出された意見は話し合い、反映させている。年1回利用者も含めた家族交流会を近くの温泉で開催し、家族との距離を縮めるようほのぼのとした雰囲気作りに努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と介護職員は常に利用者、家族の状況の変化を把握して対応出来る体制を作っており、代表者へもその都度報告している。また、毎月職員全体会議を開き、職員の意見や要望を聞く機会を設け反映させる努力をしている。	月1回全体会議を開催し、意見を聞くようにしている。管理者は日々のケアの中で問いかけたり聞き出したりしていることが多い。意見や要望は連絡ノートに記載し全員で検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者を通じて職員の勤務状況等を把握している。労働条件については、就業規則に基づいて整備しており、可能な限り職員の資格取得への配慮を行うと共に、誰もがやりがいのある職場となるように職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員が、利用者へ適切なケアが出来るように日々丁寧な指導に努めている。研修時は一部の職員に偏らず、個人に合わせたペースで指導にあたっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者と介護支援専門員は、会議や研修において同業者との交流が行われている。一般職員においては、近隣施設での研修に参加する等し施設間での交流を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談において、本人の出来る限りの情報を把握するように努めている。本人の不安を取り除くために短い時間ホームで過ごしてみることから始めたり、本人に合わせた対応が出来るように努めている。また、本人や家族からの相談には相手の立場で受け止め、良好な関係が築けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に少しでも不安に表いる事や、疑問に思っている事を聞き、不安や不信感を取り除くように努めている。入所後の希望や要望なども出来るだけきき、安心して頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初の相談において、家族と管理者、介護支援専門員の間で本人や家族の思いと、今までの状況を確認し、必要なサービスとして何が出来るか協議し、家族に説明して理解して頂けるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はグループホームを第2の我が家でもあると思い、利用者も職員も同じ家族だという意識を持って生活出来るように努めている。また、職員会議や研修において、利用者との関わり合いについて学ぶ努力をしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所される事で、利用者と家族が疎遠になったり、ゆだねっぱなしにならない様一番の支えが家族である事を理解して頂く。そのため、定期的に家族へ本人の状況をお伝えしたり、施設に来やすい雰囲気作りと、家族も関わりやすい機会を作る努力をしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に住んでいた場所や地域を訪れる機会を作っています。古くからの友人が訪ねて来られる等、気軽に立ち寄れる場所としての雰囲気作りにも努めています。	理・美容院の同行や生花の買い物同行など、本人の趣味や生活習慣を尊重した支援を行っている。外出の際に以前の居住地を訪問するなど個別に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人が孤立せず、安心して生活できるように職員で取り組み、小さなトラブルも見逃さない様に努力しています。		

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、親しくしていた利用者等に会いに行ったりしている。また、他の施設等へ移られた場合にはアセスメント、ケアプランや支援の状況の引き継ぎを十分に行い、新しい場所でも本人が戸惑わない様配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどのように暮らしたいのか、本人の思いや希望を聞き取りまた、家族からの情報を出来る限り把握するように努めている。日々の生活の中で本人の表情や仕草から、何に対して興味を示し喜ばれているのかを推測し、本人にとって充実して生活が送れるように努めている。	職員は、日頃の何気ない会話の中からでも常に利用者の思いや意向をキャッチできる耳や目を持つことを心がけている。時には家族から情報をもらい、本人の視点に立って検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者が気になる行動を起こす時、必ず要因があると考え、些細なことでも家族等から要因につながる情報が無いか聞き取りを行っている。なお、触れて欲しくない過去もあるので十分プライバシーの配慮に気を使うようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族も知らない本人の能力が、日常生活の中で発揮される事もあるので、様々な体験が出来るような機会を作り、1つでも多く出来ることを見つけて出している。職員全体会議では、普段気付いた事等を取り上げて本人の可能性を話しあいより良い支援に繋げている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス利用開始時には、ご家族や社会福祉協議会等の情報を参考に暫定的な介護計画を作成している。その後1カ月程度の経過を見て職員の意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い、本人の要望を伺ったうえで本計画に反映している。この計画はその都度、家族に説明している。	3か月に1度職員間で意見交換し、モニタリングを行い介護計画を作成している。職員全員はパソコンを駆使し、介護計画から日々の記録へと連動させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録は、食事、水分、排泄、睡眠状況は勿論の事、本人のその日のエピソード等を職員が記録し全ての職員が確認出来るようにしている。また、日勤と夜勤の引き継ぎにおいても前日までさかのぼって本人の状態が分かるように説明し、引き継いでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出行事や誕生会等、家族も一緒に同席したい等の要望があれば、出来る限りこたえるように対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町のスーパーや美容院を利用したり、施設に来られるボランティアの方々、隣接の施設の利用者さんと菜園を通じて交流を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が町内の医療機関を利用しており、施設にて通院支援を行っている。町外の病院を利用する場合は、家族が対応することとなっているが必要に応じて職員が同行したり文書にして詳しい説明を行うなどしています。	医療機関が町内1か所ということもあって、ほとんどの方がその病院がかかりつけ医となっており、通院支援している。町外の通院は家族に依頼することが多いが、必要に応じて対応している。	

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は常に、利用者の状態に気を付けて生活している。看護職員の配置は行っていないが、隣接している施設の看護師との連携は密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、家族、病院、施設の三者で今後の対応について十分協議して、本人が一番良い形で退院出来るように進めている。また、入院時は、本人の生活支援の状況を病院に伝えると共に、職員が定期的に病院を訪問し病院での本人の様子を確認し、家族へ伝える等しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設では、医療行為が発生しない範囲で、可能な限りサービスを提供する方針としている。重度化や終末期の対応は、利用開始時に利用者や家族に方針を説明したり、重要事項の説明の追加で説明させていただき、その都度納得を頂いている。	契約時の重要事項説明書に重度化した場合における対応について記載されており、事業所としての姿勢の説明を行っている。状況の変化の度に本人・家族の意向を踏まえ、各機関と連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度、行政機関や消防の協力を得て救急車が到着する前の応急処置や準備すべき事等についての研修を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者と共に避難訓練を行っている。より現実に近い避難を想定し、消防や隣接する介護施設や町内会と共に訓練を行っている。また、運営推進会議に合わせて避難訓練を行い、ご家族や行政地域包括支援センターの職員にも見学して頂き感想や意見を聴いている。	年2回のうち1回は夜間を想定した避難訓練を行っている。運営推進会議を通して地域の方々にも呼びかけ見学してもらっている。隣接されている施設との協力体制もできている。	火災のみならず色々な災害の発生に備えて非常用物品の準備が必要であり、また職員だけの誘導の限界を地域の方々に理解してもらい、協力も含めた具体的な対策の整備に取り組まれることを期待する。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への呼びかけやトイレ誘導の際は、本人や他の利用者へのプライバシーに配慮するように心がけ、気になる事は職員会議で話し合っている。個人記録は鍵のかかる場所とパソコン内に保管している。面会受付簿は単票保管としてプライバシーをまもっている。	排泄時の声かけなどもさりげない言葉かけを行うなどの配慮をし、手を出し過ぎない介護を心がけている。個人記録の書類は全職員がパソコンに打ち込み、責任ある取り扱い管理をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員一人一人が、利用者支援の為に日頃から密接な関係を持ち、意思表示しやすい環境を作っている。色々な行事を行う場合も全て職員で決めたりせず、利用者からも意見や要望を言える機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方は、なるべく本人の要望を尊重しその人のペースに合わせて物事を進めている。一人一人の趣味や志向に合わせた対応を心掛けている。利用者の希望も聞きながら、外出計画を立てて実行している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは本人の意思で決めており、見守りや支援が必要な時のみ職員が手伝っている。日頃からおしゃれやお化粧を楽しみたい利用者には、行事などに合わせて職員がお手伝いさせていただき、一緒に楽しんでいる。		

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや、食事の後かたづけ等、利用者が出来ることをお手伝いして頂いている。味見や、調理の仕方を聴く等、調理に参加する工夫もしている。食事中は音楽を掛け、職員も一緒に入りながら和やかな雰囲気を作っている。	昼食は職員とテーブルを囲み楽しく会話しながら食すようにしている。下膳はなるべく本人たちに行ってもらっている。外出行事時の食事や出前などいつもの食事とは違う雰囲気作りも行っている。また特別養護老人ホームの栄養士からのアドバイスも受けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全職員が、利用者個人の水分量や食事の記録を管理し、不足していれば摂取して頂けるように工夫をしている。また、利用者一人一人の嗜好も把握し、その人に合わせた栄養摂取に心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の習慣として、利用者に食後の歯磨きや、うがいや歯を磨くケアをしている。ケアを行う際は相手の気持ちを配慮しながら本人のケア能力を引き出せるように心がけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全ての利用者がトイレで排泄出来ているが、パッドや紙パンツを使用している方もおり、排泄パターンを記録しながら排泄の自力に向けた援助や支援を行っている。	全員がトイレでの排泄が可能である。トイレには男性用もあり、誘導で壁に手つき、立って排泄することができた利用者もいる。常に本人に合わせた対応を心がけている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	比較的普段体を動かさない利用者には便秘がちの方が多く、乳製品や野菜ジュース等で対応したり、食物繊維の多い食事を提供する等心がけている。また、リハビリ体操や風船バレー等個々に応じた運動も取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴して頂いているが、入浴日以外でも希望や必要に応じて足浴やシャワー浴等を行っていたりしている。また、利用者同士で仲良くお話ししながら入浴出来るように、時折温泉へ行くこともある。	週2回と決まってはいるが、必要に応じてシャワー浴や足浴で対応している。仲のよい人達が脱衣所ですれ違い、会話が弾むなどの工夫もしている。又近くの温泉利用も多く、大きなお風呂で寛いでもらえるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の生活リズムを考え、夜は穏やかに休めるように配慮している。眠れない利用者がいれば寄り添い会話をしたり、落ち着いて休める環境作りを工夫している。また、日中はなるべく体の負担にならない程度に体を動かし、体調を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ごとにファイルしている。職員が把握しやすい様に、投薬箱に名前をはり、朝・昼・夕と色の違う箱にしている。また、薬の処方が変わった時には状態を観察・記録し医療機関に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が得意分野で力が発揮できるように、菜園作りを行ったり、掃除・洗濯・調理のお手伝い等利用者が負担と感じない程度にお願いし、終わった後は感謝の言葉を伝えるようにしている。		

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩をしたり、買い物へ一緒に出かけて楽しんで頂いている。また、利用者一人一人に希望を取って、動物園や海等様々な場所へ出かけられる様行事を企画している。また、昔住んでいた場所等ヘドライブに出かけ、当時の様子を話しながら懐かしんで頂いている。	行事計画を立てて、買い物ツアーやバラ園見学などを行っている。遠出の場合も家族の協力を仰ぎ、個別対応にて行っている。夏場は毎日散歩に出かけ、花壇や畑を眺めたり、近所の人たちと触れ合うことで五感刺激の機会作りとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が、お金を使う事で満足感と社会とのつながっている事を実感できるよう、外出時に支払いの場面を作り出来る範囲で清算等行っている。また、本人の希望でお小遣いを渡し、買い物したり計算しながら使用する機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が手紙を書きたい時には、気軽に出来るように用意したり、依頼があれば代筆している。施設の電話はプライバシーも配慮し自室でも話が出来るように配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、利用者の作品や写真を飾っている。家具調度品や熱帯魚の水槽で家庭的な雰囲気作りをしている。2か所に大きな吹きぬけがあり自然光を取り入れた開放的な造りとなっており、床暖房で自然なぬくもりを調節している。	光の刺激が強すぎないように部分的なカーテンの設置などの配慮もされている。壁には利用者と一緒に作成した町民芸術祭出品作を飾ることで、そのときの思いを懐かしんでもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物の構造上、利用者の居室空間がフローアと居間のみで自室以外は落ち着きのない雰囲気である。その為、ソファやテレビ食卓テーブルの位置で工夫を凝らし少しでも安全で落ち着いた暮らしが出来よう空間づくりを検討している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者が落ち着いて過ごせるように馴染みのタンスや仏壇等の家具を使用している。壁にも自分で自由に写真や誕生日カードを貼る等空間づくりをしている。	馴染みのある品を持ってきてもらい、自宅とのギャップを感じさせないようにしている。仏壇・遺影などは仏飯・供花などの支援も行っている。また居室には畳の間があり、横になったり、座ったりと居心地よく過ごせるよう工夫している	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は出来るだけ利用者が落ち着いて過ごせる環境を心掛けている。また、体力の低下等利用者の状態に応じて、家具の安全な配置と安心して入浴出来るように介護器具の設置等、その都度職員で話しあい検討している。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

作成日：平成 25年 3月 29日

市町村受理日：平成 25年 3月 29日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	火災のみならず色々な災害の発生に備えて非常用物品の準備が必要であり、また職員だけの誘導の限界を地域の方々に理解してもらい、協力も含めた具体的な対策の整理に取り組まれることを期待する。	非常災害時の備えを具体的に行う。	有事の災害時のために、飲料品については、ペットボトル(水)及び保存食(おかゆ)の準備をすることとする。保存期間の決まりや災害時の日数の設定については、町内福祉施設を参考に決めることとする。火災を想定した避難訓練の開催を、地域住民に呼びかけ参加の機会を作る。	1年間
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。